

もっと知りたい、きよせの暮らし

# more!

**KIYOSE** City Promotion Magazine

No.

# 10

2026.3

エンジョイからはじまる支え合い  
子どもたちの学びを支え、地域をつなぐ、  
**学校支援ボランティア**



清瀬市立学校の小中連携教育／きよせフレンドリータウン／  
清瀬駅周辺の未来構想ビジョン／清瀬市店舗認証制度／  
KIYOSE REPORT／清瀬市観光協会の推し!

清瀬第七小学校「ななサボ」の皆さん

# 子どもたちの学びを支え、地域をつなぐ、 学校支援ボランティア

子どもたちの学びを支え、地域をつなぐ、学校支援ボランティア。エンジョイからはじまる支え合いが、子どもたちの学びを豊かにしています。清瀬の学校で広がる取り組みと、その思いを紹介します。

## 地域とともに支える 教育活動のかたち

学校を取り巻く環境が大きく変化するか、子どもたちの学びを支えるには、教職員だけでは完結しません。清瀬市では、地域とともに教育活動を支える仕組みとして「学校支援本部」を全小・中学校に設置しています。中心となるのは地域コーディネーター。学校のニーズを丁寧にくみ取り、体験授業の講師、授業補助、学校行事の運営支援、校内環境整備など、多様な活動を地域のボランティアへとつないでいます。

あれば、どなたでも「関わることができる」が特徴です。活動は各校の学校支援本部のもとで行われ、依頼に応じて参加します。短時間の協力から継続的な活動まで、関わり方はさまざま。体力測定の補助や校外学習の見守り、運動会の支援など、日々の学校生活のなかで地域の力が生きています。この取り組みは、子どもたちにとって多様な大人と出会う機会となり、学習への興味や意欲を高めるきっかけにもなっています。また、多くの大人が見守ることで、よりきめ細やかな教育環境が整い、教職員は本来の教育活動に、より一層力を注ぐことができます。学校と地域を結ぶこの仕組みは、開かれた教育環境をつくる大切な基盤となっています。

## エンジョイからはじまる支え合い

清明小では地域ボランティアによる清明未来塾(放課後学習教室)を開催!  
清明小 渋谷校長



十小では十小ファームを中心に野菜の収穫や焼き芋会を実施!  
清瀬十小 鈴木校長



清中では不審者対応の避難訓練を実施。格闘家をお願いをしたので迫力の演技に生徒も真剣でした。  
清瀬中 小澤校長



五中では地域の皆さんと生徒が一丸となって、花プロ(花の子カラプロジェクト)を実施しています。  
清瀬五中 牧口校長 (AI生成)



## 学校支援ボランティア 募集しています

学校支援本部では、学校の教育活動を支えてくださるボランティアを募集しています。1日だけ、短時間だけの参加も歓迎です。特技や経験を生かしながら、地域のみんで清瀬の子どもたちの成長を応援しませんか。右記二次元バーコードよりご登録ください。

申し込みフォームはこちら!



## エンジョイから広がる

学校支援ボランティアの魅力は、「支える側」だけの活動ではないことです。自分の特技や経験を子どもたちに還元することで、新たな学びや気づきが生れます。趣味で続けてきたこと、仕事で培った専門性、子育ての経験—そうした一人ひとりの「好き」や「得意」が、教育活動の中で生かされています。

活動に参加する方々からは、「学校前やバイト前等、空いた時間に活動がしやすい」「就活や教員試験に役立てた」「子どもたちに自分の経験を伝えることができた」「定年退職後の生きがいになる」といった声が寄せられています。

子どもたちにとっては、地域の大人との関わりを通して、社会性やコミュニケーション能力が育まれます。多様な価値観や専門性に触れることで、主体的に考え、行動する力が養われます。一方、地域の方にとっても、学校の様子を知ることや理解が深まり、子どもたちの未来を共に支える実感が生まれます。こうした積み重ねが、地域の絆を強めていきます。

エンジョイからはじまる支え合いは、特別なものではありません。誰かの「やってみよう」という気持ちで、子どもたちの学びを豊かにし、地域全体のつながりを育てていく—その循環こそが、学校支援ボランティアの力です。

## 地域の力を学校につなぐ 学校支援本部の活動紹介

清瀬市内の市立小学校では、地域の力を生かした多彩な活動が展開されています。4つの小学校の事例を通して、その活動の様子をご紹介します。



### 芝山小学校

漢字検定や環境美化活動に加え、中庭を活用した「食育」プロジェクトを実施。子どもたちが主体的に畑づくりに取り組み、地域団体と連携した秋祭りの計画も進めています。

芝山小支援本部の皆さん



### 清瀬第六小学校

「落ち葉でお芋大作戦」や「六小フリマ」、地域料理教室など多彩な企画を展開。休日に図書室を開放する「六小ライカ」も、子どもと地域が集う居場所として根付いています。

六小プロジェクトXの皆さん



### 清瀬第七小学校

毎週水曜日、中休みに行く花壇整備「ななりんのお庭」を中心に、読み聞かせや学習支援など多彩な活動を展開。卒業生や地域の大人も関わる循環型ボランティアが広がっています。

ななサポの皆さん



### 清瀬第八小学校

芝生の管理を軸に、保護者の会や地域団体と連携して「芝まつり」を開催。200名を超える児童が参加し、読み聞かせや図書ボランティアなど多様な支援活動も定着しています。

SNBの皆さん



# 子どもの成長を支える取り組み 清瀬市立学校の小中連携教育



小学校から中学校へ。子どもたちの9年間の学びを、切れ目なくつないでいく「小中連携教育」。清瀬市では、市立全校で連携の取り組みを進めています。進学への不安をやわらげ、安心して成長できる環境づくりの今をご紹介します。

## 各中学校区で進む 取り組みの実例

各中学校区では、目指す子ども像を共有しながら、特色ある小中連携の実践を積み重ねています。授業づくりの工夫や児童・生徒の交流、地域との協働など、その具体的な取り組みの一部をご紹介します。



清瀬中学校区グループ

国語・算数・外国語の指導を小中で共有し、教材や評価の視点を揃える取り組みを推進。夏季補習や授業動画の紹介、地域食材を活用した給食の取り組みなどを通して、学力向上と地域への愛着を育てています。



清瀬第二中学校区グループ

ICT活用や生活指導の情報交換を柱に、授業改善を実施。6年生と中学生の自己紹介の会や授業参観を通して進学不安を軽減し、小中教員の相互理解を深めながら、9年間の一貫した指導を目指しています。



清瀬第三中学校区グループ

体験授業や交流活動を通して自分らしく安心して学ぶ環境づくりを推進。修学旅行フォトコンテストや地域連携行事など、多様な活動を通して主体的に学ぶ姿勢を育てています。



清瀬第四中学校区グループ

タブレットを活用した授業公開や学習内容の系統整理を行い、小中の学びを見える化。クラブ活動交流や合唱交流、ボランティア活動などを通して、中学校生活への具体的なイメージを育てています。



清瀬第五中学校区グループ

9年間を見通した教育目標の共有と合同研修会を実施。音楽会や、地域と連携した「花のチカラプロジェクト」、教員同士の交流などを通して、教員・児童生徒双方のつながりを深めています。

### 9年間で育てる学びのかたち 小中連携という考え方

清瀬市では、令和6年度から「小中連携教育推進期間」と位置付け、市立全校で9年間を見通した教育の充実に取り組んでいます。小学校から中学校への円滑な接続を図り、学びの連続性や系統性を大切にすることは、学習指導要領にも示されている重要な視点です。小中連携教育とは、小学校と中学校が互いに情報交換や交流を行いながら、子どもたちの学びと育ちをつないでいく取り組みです。進学時の環境変化による不安、いわゆる「中1ギャップ」をやわらげ、安心して次のステージへ進める環境を整えることも大きな目的の一つです。今年1月に開催された清瀬市教育フォーラムでは、各中学校区がこれまでの実践を発表しました。発表では、学力向上の取り組み、命の教育、地域と連携した活動など、多様な実践が紹介されました。

例えば、国語・算数・外国語の指導方法を小中で共有し、教材や評価の視点をそろえる取り組みがあります。英語では、単語ビンゴや歌、ワークシートなどを小中で活用し、

系統的な指導を進めています。また、中学生の授業の様子を動画で紹介することで、小学生が中学校生活を具体的にイメージできるよう工夫しています。さらに、命の大切さを学ぶ授業や、給食の残菜削減に取り組むSDGsの活動なども展開されています。地域の食材を活用したメニューづくりを通して、地域への愛着や社会に関わろうとする意識の向上も見られました。

### 子どもにとって最良とは何か 連携がつくる安心の環境

フォーラムの最後に挨拶した坂田教育長は、小中連携の本質について語りました。かつては小学校と中学校の間に、互いへの戸惑いや誤解があったことにも触れ、「しかし、連携を重ねる中で、お互いの事情や工夫を知ることができた。批判ではなく理解が生まれた」と話しました。

大切なのは、各地区で「育てたい子どもの姿」を共有すること。清瀬市の子どもたちにどんな力を身に付けてほしいのか。その目標を9年間で一貫して追いかけることが、小中連携の核になります。小学校は

告されています。

小中連携教育は、学校の中だけで完結するものではありません。保護者や地域の皆さまの理解と協力があってこそ、9年間を通じた支えが実現します。市教育委員会は、今後も取り組みの成果を検証しながら、ホームページやフォーラムなどを通して状況をお知らせしていきます。

9年間で一人の子どもを育てるという視点。その積み重ねが、進学への安心と確かな成長へとつながっています。

### 清瀬市教育フォーラムで見た 小中連携の現在地

本年1月31日に開催された清瀬市教育フォーラムでは、市内5つの中学校区が、小中連携の実践を紹介しました。中学生の姿に憧れる小学生の声、教員同士の理解が深まったという報告など、9年間で子どもを育てる確かな手応えが語られました。最後に坂田教育長が「よい学校がよいまちをつくる」と述べ、会場は大きな拍手に包まれました。





そば畑



おといねっぶ  
美術工芸高等学校

## 北海道おといねっぶ音威子府村



遠藤貴幸村長

人口約600人の北海道で最も小さな村。面積の約86%を森林が占め、天塩川が流れる自然豊かな環境が魅力です。村立のおといねっぶ美術工芸高等学校には全国からものづくりを志す生徒が集まり、「森と匠の村」としても知られています。黒いそばで知られる音威子府そばや、ホワイトアスパラ、ジェラートなどの特産品も人気です。

## 自治体連携で進める共生のまちづくり

# きよせフレンドリータウン

全国の自治体や団体、民間事業者との学びの場から生まれたご縁。そのつながりをきっかけに、清瀬市の魅力を外へ届けるさまざまな取り組みが動き出しています。市がハブとなり、つながりを未来へ広げていきます。

### きよせフレンドリータウンとは？

実際に交流のあった自治体とのご縁を育てる取り組みで、協定などの取り交わしのない気軽な関係。イベント交流や観光PRなどを相互に行い、交流人口・関係人口・応援人口の拡大を目指します。「きよせ市民まつり2025」では、各自治体の特産品などの販売を通じ交流を深めています。



さかき千曲川  
バラ公園



ねずみ大根

## 長野県坂城町



山村弘町長

特産のねずみ大根を使った「おしぼりうどん」や、約2,300株のバラが咲くさかき千曲川バラ公園など、食と花の魅力あふれるまちです。機械・金属加工業を中心に約200社が集積する「ものづくりのまち」として発展してきました。降雨量が少なく晴天に恵まれた気候を活かし、リンゴやブドウの生産も盛んに行われています。



クマヤキ



## 北海道津別町



佐藤多一町長

北海道東部・オホーツク圏内陸に位置する、人口約3,800人のまち。町の約86%を森林が占め、「愛林のまち」を掲げ、林業と農業を基幹産業に発展してきました。神秘的なチミケツブ湖や津別峠の雲海など雄大な自然が魅力です。木工製品や乳製品、農産物などの特産品も豊富で、「きよせ市民まつり」に出店したクマヤキも人気を集めました。



津別峠の雲海



## 西武グループ×清瀬市

広がる

### きよせフレンドリー カンパニー

西武鉄道株式会社との連携協定を皮切りに西武グループとの連携が広がっています。プリンスアイスワールド2025-2026東京公演に出演された「清瀬駅の推し」河野有香さんが市長を表敬訪問し、市内児童福祉施設の子どもたちを公演へ招待してくださいました。公演を主催する西武グループとの協力のもと、地域とのつながりを育む取り組みが進んでいます。今後も「きよせフレンドリーカンパニー」の輪を広げていきます。



河野さん(右)と湊谷市長(左)

## 長野県立科町



両角正芳町長

友好交流都市協定 災害時相互応援に関する協定

長野県東部に位置し、北部の田園地帯と南部の高原リゾートからなる自然豊かな地域です。標高2,531mの蓼科山を望む女神湖や、白樺湖など四季折々の景観が広がります。リンゴやブドウ、信州蓼科牛などの農畜産物も自慢。中山道の笠取峠には江戸時代の面影を残すマツ並木が続き、歴史と自然が調和しています。



女神のテラス1830

## 福島県北塩原村



遠藤和夫村長

北塩原村は、磐梯山北麓の観光地『日本の湖水地方 裏磐梯』を有し、明治の磐梯山噴火で生まれた300以上の湖沼と豊かな山並みが織りなす雄大な景観が魅力です。春は約3,000本のオオヤマザクラが咲き誇り、夏は新緑や湖でのアクティビティ、秋は鮮やかな紅葉、冬は幻想的な雪景色と四季折々の自然美や会津米や会津山塩など地元の恵みあふれる特産品も楽しめます。



桜峠

# 清瀬駅周辺の未来構想ビジョン

## みんなで育む、まちのホッとリビングへ

清瀬駅周辺のまちづくりの方向性を描いた「清瀬駅 駅前整備やにぎわいづくりを通して目指すのは、その想いとこれからの

周辺の未来構想ビジョン」が策定されました。「みんなで育む ホッとリビング 駅まちきよせ」。風景をひも解きます。

### 未来構想ビジョン策定の目的

駅前の未来を共有するために

清瀬駅周辺を、市の中心拠点として将来にわたって発展させていくため、目指す姿と進め方を明確にすることが策定の目的です。交通の安全性向上やにぎわい創出など、ハードとソフトの両面から取り組むための共通の指針を示しています。

「ホッとリビング」には、にぎわいの温かさや、安心して過ごせる落ち着いた空間の二つの意味が込められています。活気があがりながらもゆとりがあり、ひとりでも、大切な人とでも自然に過ごせる場所。清瀬駅周辺を、そんな「まちのリビング」へと育てていく考えです。日常の中に身近な居場所を増やし、世代を超えてつながれる空間をつくることも、その目

標の一つです。実現に向け、ビジョンでは拠点機能の強化、交通機能の強化、環境ルールづくり、まちを動かす人や機会を生み出す仕組みづくりの4つの方向性が示されています。駅前広場や道路整備、南北移動の改善、バリアフリー推進といった基盤整備に加え、商業機能の充実やイベントの活性化など、ハードとソフトの両面から取り組むことが想定されています。駅周辺を一体的に捉え直し、段階的に更新していく構想です。将来像に向けた具体的な検討も、順次進めていきます。

重視しているのは、「みんなで育む」という視点です。行政だけでなく、市民や事業者、教育機関など多様な主体が連携しながら駅周辺の価値を高めていきます。公共空間の活用や地域イベントの広がり、商店街の新たな挑戦も、その流れの中に位置づけられています。一人ひとりの関わりが、清瀬駅周辺の表情を少しずつ変えていきます。

計画は社会状況に応じて検証・見直しを行いながら、着実に進めます。清瀬駅周辺は清瀬の第一印象であり、市民にとっては毎日の風景です。ビジョンは完成図ではなく、未来に向けた共有地図。駅まちきよせをどんな場所に育てていくのか——その歩みは、これからの関わりの中で形づくられていきます。

### 清瀬駅からはじまる 未来へのまちづくり

清瀬駅周辺のこれからを描く「清瀬駅周辺の未来構想ビジョン」を策定しました。対象は駅からおよそ半径300mのエリア。今後約30年を見据え、駅前広場や道路整備だけでなく、にぎわいや交流の場づくりまでを含めた将来像を示すものです。清瀬市の玄関口をどう育てていくのか、その方向性を整理しました。駅を起点に、まち全体の魅力を高めていこうという構想でもあります。

清瀬駅周辺は、市の中心拠点として位置づけられています。都心へのア

クセスがよく、商店街や医療機関、公共施設が集まる利便性の高いエリアです。一方で、南口ロータリーの混雑や南北移動のしづらさ、歩道の段差、エスカレーター不足などの課題も指摘されています。駅前にゆったり過ごせる広場が少ないことや、若い世代が集える場所が限られていることも、これまで挙げられてきた声の一つです。

通過点ではなく、暮らしの中心として整えていこうという方向性が共有されました。日常の中で感じてきた小さな不便や願いが、計画に反映されています。掲げられた将来像は、「みんなで育むホッとリビング 駅まちきよせ」に、にぎわいとゆとりが調和した「まちのリビング」を目指します。買ひものや通勤通学場に留まらず、待ち合わせやひと息の時間も心地よく過ごせる場所へ。安全・安心を土台に、清瀬市らしい清瀬駅周辺のあり方を少しずつ形にしていける取り組みが始まっています。その歩みは、これからのまちづくりの土台となります。



### 03 まちの環境を維持向上するルールをつくる

駅周辺の魅力を活かし、景観や沿道のにぎわいを育てます。老朽建物の更新やクリーンで健幸につながる環境づくりを進め、清瀬らしい街並みを守るルールを整えます。



### 04 まちを動かす人や機会の仕組みをつくる

多様な人がつながり、交流や活動が広がる環境を整えます。若い世代の挑戦や商店街の創業を後押しし、まちを動かす人と機会を育てる仕組みをつくります。



### 01 まちの拠点機能を強化する

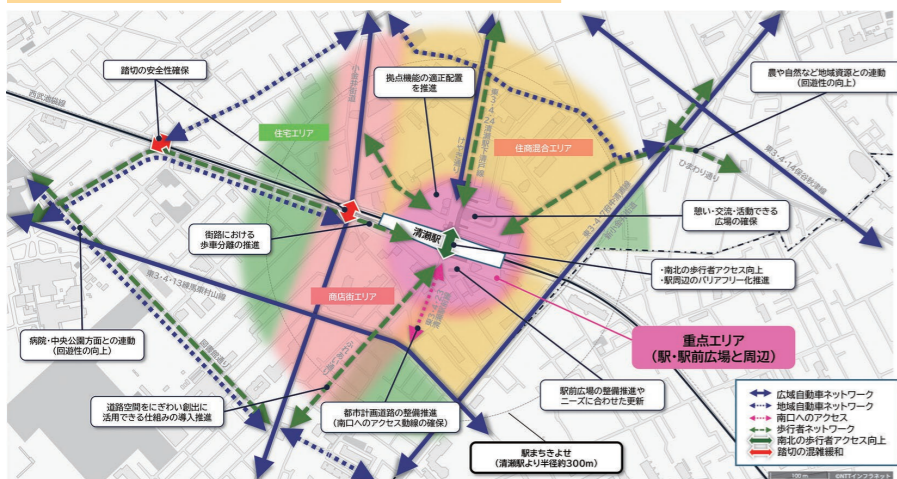
清瀬市の中心拠点として、多様な世代が暮らし働き訪れるにぎわいあるまちを目指し、都市機能の適正配置や安全な施設整備、憩いの場の確保を進めます。



### 02 まちの交通機能を強化する

多様な人と交通が集まる結節点として、駅前広場や道路、歩道を整備し、南北往来の安全性と利便性を高めます。放置自転車や路上駐車対策も進めます。

### 清瀬駅周辺のまちづくりのイメージ



清瀬駅を中心とした重点エリアや自転車・歩行者ネットワークなど、将来のまちの骨格を示したイメージ図

# お店の人に聞きました

## 清瀬市店舗認証制度の想い

清瀬市店舗認証制度は、ユニバーサルデザイン対応、親子で利用しやすい工夫、地産地消の取り組みなどを行うお店を認証する制度です。12の認証店の店主やスタッフの皆さんから、制度への想いや日々の取り組みを、ひと言ずつ語っていただきました。

認証店には認証プレートを授与し、市のホームページでお店の紹介を行っています。



通年募集中!

### どんなお店が認証されるの？ 3つのカテゴリーと 審査ポイント

#### ユニバーサルデザイン対応 店舗認証

だれにとっても使いやすい環境づくりに取り組むお店が対象です。段差の解消や表示の工夫など、市のチェックリストに基づき一定基準を満たした店舗に認証が与えられます。

#### 親子で利用しやすい店舗認証

子育て世代に配慮した取り組みを行うお店のための区分です。おむつ替えスペースや授乳対応、ベビーカー利用可など、親子が安心して過ごせる環境づくりが評価されます。

#### 地産地消推進店舗認証

清瀬市産の食材を積極的に活用する姿勢を示す区分です。地元で育まれた農産物などを取り入れ、地域の食の循環や魅力向上につなげる取り組みが認められます。



清瀬の農家さんから直接仕入れた新鮮な野菜を使い、そのおいしさを一番いいかたちで味わっていただけるお料理をお届けしていきます。



親子 地産  
旬菜魚hiro  
[和食居酒屋]

▲清瀬市元町1-13-7  
並木ビル1F  
☎042-459-1486  
◎16:00~23:00/  
日曜定休



お野菜を取り入れた洋食を手づくりしています。地元の食材を大切にしながら、さまざまな場面で楽しんでもいただけたらうれしいです。



ユニ 親子 地産  
イカル×  
肉バルHaru  
[バル]

▲清瀬市元町1-9-3  
サンビュー・ハイツ清瀬  
公営ビル1F  
☎042-497-9268  
◎16:00~23:00/  
月曜定休



地元の野菜を無駄にせず、その持ち味を活かした料理を提供していきます。素材の力を大切にしながら、ひと皿ひと皿を丁寧に届けます。



地産  
うどん亭  
なべきち  
[うどん]

▲清瀬市竹丘2-2-26  
☎042-493-0155  
◎10:00~14:00LO/  
月・火曜定休



「いいものを食べてもらいたい」という思いを大切に、手ごろな価格で満足していただける味を追求しています。



地産  
吉家  
[居酒屋]

▲清瀬市元町2-3-1  
☎042-495-5533  
◎17:00~23:00/  
日・月曜定休



地場野菜の魅力を、パンを通して伝えていきます。素材の風味を活かしながら、毎日の食卓にうれしいパンを焼いています。



地産  
パンのみせ  
アンヌアンネ  
[パン]

▲清瀬市上清戸  
1-15-19  
☎042-495-4090  
◎10:00~19:00/  
日・月曜定休



手ごろな価格でお料理を提供しています。どなたにも使いやすい、親子でも安心して過ごせる、やさしいお店づくりを大切にしています。



ユニ 親子  
Café  
ふわっとな  
[カフェ]

▲清瀬市上清戸  
1-15-18  
☎042-497-9481  
◎10:00~16:00  
(ランチ11:30~14:00)/  
土・日曜定休



おすすめは、打っ掛けかき揚げそば。120gもの野菜を使い、一日に必要な野菜の三分の二が摂取できます。冷たいツユでさっぱりどうぞ。



地産  
田舎うどん  
篠新  
[そば・うどん]

▲清瀬市松山2-4-6  
☎042-494-1514  
◎11:30~14:30、  
17:30~20:30/  
月・火曜定休



うちのお好み焼きは関西風。紅しょうが、ネギ、天かす、玉子を合わせ、ひとりでも軽く食べられる仕上がりに。ソースは甘くなりすぎないように2種類をブレンドします。



地産  
鉄板倶楽部  
Papas&Mamas  
[お好み焼き]

▲清瀬市松山1-8-21  
☎042-491-0085  
◎17:00~22:00  
(21:30LO)/不定休



新鮮な清瀬野菜を活かした洋食のメニューづくりに取り組んでいます。地元の恵みを感じてもらえるひと皿を届けます。



親子 地産  
キッチンズギ  
[洋食]

▲清瀬市松山1-20-8  
☎042-491-0160  
◎11:30~14:00、  
17:30~21:00/  
月曜、第1火曜定休



旬の素材を取り入れ、おいしさはもちろん見たためにも美しいひと皿を考えています。季節を感じる料理で食卓に彩りを添えます。



地産  
レストラン  
アルブル  
[カジュアルフレンチ]

▲清瀬市松山1-4-17  
山加ビル1F  
☎042-492-7800  
◎11:30~13:30、  
17:30~19:00/  
月曜・火曜定休



誰もが安心して食べられる食事を大切にしています。地元への感謝を込めて、あたたかい時間を過ごしていきます。



地産  
みんなの  
タコ公園  
[カフェ]

▲清瀬市松山1-18-4  
☎042-497-9420  
◎11:30~23:00/  
火曜定休



# KIYOSE REPORT #02

## 春のローカルフードライフ Local Food Life Farmers Night

w/ 清瀬ベジフルパーティー in自由が丘



清瀬市は農業が盛んなまちとして知られていますが、実は5軒の牧場があり、都内有数の規模を誇る酪農の地でもあります。清瀬の牧場で搾られた新鮮な生乳は「東京牛乳」の原料となるほか、目黒区碑文谷にある「GOOD CHEESE LABORATORY」へと出荷されています。

そこで「清瀬の生乳」から作られているフレッシュチーズの縁がきっかけとなり、特別なコラボイベントが実現することになりました。GOOD CHEESEグループをはじめとした9店舗の飲食店で「LOCAL FOOD LIFE」という、食を通して、その土地に暮らす人々の営み、食生活、暮らしの背景、そして歴史を伝えるイベントです。第2弾として



開催される今回のテーマは東京。「東京の野菜の価値を東京で生きる私たち自身が知り、味わい、未来へつなげたい」。そんな

想いのもと、清瀬市をはじめとする東京の生産者とシェフが手を取り合い、実現しました。

会場では、清瀬市の生産者による野菜販売や、シェフ自慢のビュッフェ、フレッシュチーズの物販コーナーなどが並びます。さらに清瀬市民の皆さまへの特別な優待として、一般価格よりもお得な料金で、ドリンクチケットを2枚付けてご案内します。

清瀬市が誇る新鮮なチーズと、東京の豊かな大地が育んだ野菜。その素晴らしい出会いを、ぜひ自由が丘の会場で体験してください。



【イベント概要】 \ 清瀬市民にはお得な特典あり! /  
日時: 4月4日(土) 18:00~21:00  
場所: GOOD CHEESE GOOD PIZZA  
自由が丘店  
(目黒区自由が丘2-17-8 3F)  
料金(清瀬市民割引): 4,400円(税込)  
予約はこちらのQRコードより▶



### 清瀬市観光協会の

# お 推し!



※試食、協議をする渋谷市長(中央)、JA東京みらい清瀬直売会 小糸会長(左)、清瀬市消防団 村野団長(右)



### 清瀬の恵みを、「もしも」の時の安心に

## 地場産野菜でつくった「防災備蓄カレーリゾット」

都内一の生産量を誇るニンジンを使用した備蓄食品「防災備蓄カレー」を清瀬市が開発、製造しました。動物性油脂を使っていないのであたたため不要、ご飯入りなのでそのまま食べられます。

5年の長期保存が可能で、市の備蓄のほか、家庭備蓄を広めるために、4月1日から一般販売の受付を開始します。

地方公共団体が地場産野菜を使用して備蓄食品を開発するのは全国でも類例のない新しい取り組みです。

問合せ: 産業振興課農政係 ☎042-497-2052



詳しい情報は  
こちら

### more! KIYOSE vol.10

発行: 清瀬市シティプロモーション課  
発行月: 2026年3月  
問合せ: ☎042-497-1808 (直通)  
制作: 合同会社ハチコク社



SDGs  
未来都市  
しあわせは、ここにあり  
清瀬市  
Kiyose City

清瀬市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



みんなの力で  
大江戸線を清瀬市へ

本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください。  
©2026 more! KIYOSE all rights reserved.

### あなたの声をお聞かせください

本誌へのご意見やご感想、  
気になる情報や見てみたい企  
画も募集中です。これまでの  
号も合わせてご覧ください。

ご回答は  
LoGoフォームへ▶



バックナンバーは  
こちら▶

